

# 30P1-am125

戦前の日本漫画『のらくろ』に登場する薬学的事項

○五位野 政彦<sup>1</sup>, 宮本 法子<sup>2</sup>, 川瀬 清<sup>3</sup>(<sup>1</sup>東京海道病院薬, <sup>2</sup>東京薬大薬, <sup>3</sup>日本薬史学会)

## 【はじめに】

戦前の日本における代表的マンガ『のらくろ』に登場する薬学関連, 特に医薬品に関する場面を抽出し, その結果を報告する.

## 【対象作品】

『のらくろ』 田河水泡著 (大日本雄辯会講談社『少年倶楽部』1931-1941)

今回は原典でなく, 少年倶楽部文庫版 (講談社 1980-1981) を参照した.

## 【結果】

薬学に関する事項 (医薬品, 毒薬の登場, 公衆衛生等) は 13 話に登場.

特に下記の 2 エピソードは医薬品の適正使用に関する話題を含む.

- ・ 医薬品の取違いによる有害事象の発生 (軍医交付の外用薬剤を誤受領, 使用)
- ・ ニセ医薬品・医療用具の購入, 使用. その結果有害事象が発生.

上記 2 エピソードには薬学関係者 (薬剤師, 薬剤官等) は登場しない.

## 【考察】

一般に「マンガ」の内容は虚構である. この作品の内容も事実ではない.

しかしこれらのエピソードは次のように見ることができる. すなわち 1930 年代に『少年倶楽部』を読むことができた (男子) 少年層に対して, 医薬品の適正使用の啓蒙を, 当時絶大な人気を博していた『のらくろ』を通じて行なったケースである. また, ここに登場する問題は 2006 年現在にも通じる問題点である.

本作品には軍薬剤官, 薬剤師, 薬種商は出てこない. 理由としては (1) 読者, 原作者の意識に薬剤師という存在が薄かった (2) 軍薬剤官の主要職務が調剤だけではない, とものと考えられる.